

安曇野市立小・中学校の将来構想（案）に関するパブリックコメントの実施結果

- ・意見募集期間 令和3年7月21日（水）～令和3年8月20日（金）
- ・意見募集の結果 31件

NO	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
1	4-5ページの、時代の変化に対応した、教育環境整備について ・洋式トイレ化と可能であれば温水洗浄便座の整備を盛り込んでいただきたい。 災害発生時の観点からも洋式トイレ化は急ぐべきである。	トイレ改修については、その必要性を十分に理解し検討を重ねてきています。現時点では「学校施設長寿命化計画」（令和2年3月策定）に基づき、計画的に実施していくこととしています。なお、便座に付帯する機能につきましては、すでに整備済みの学校の状況を検証したうえで研究してまいります。
2	・校舎内にも防犯カメラを設置して録画記録しておくことを検討すべき。また、登下校のランドセル等にGPSやGoProのような機器を配布し付けておくことも検討すべきと考える。	学校安全対策として防犯カメラ等の設置、位置情報を読み取るための機器の配布は一つの選択肢ですが、現時点で採用の予定はありません。
3	・通学路の安全に関する記載がない所が気になる。通学路において、正門付近や横断歩道前にハンプを設け、強制的に車を減速させることは重大事故の抑制に非常に効果が見込まれる。また、安曇野警察署との連携で、登下校時間帯の取り締まりも検討すべき。	通学路の安全確保は極めて重要であると考えており、様々な取り組みを行っております。ご提案は関係機関との調整が必要です。今後の参考といたします。
4	・教育関連予算の確保、特に校舎等の改修にはふるさと納税を活用してはどうか。	令和2年度は安曇野ふるさと寄附金として4,267件、約10億7千万円のご寄附をいただき、中学校のエアコン設置工事費、小学校の電子黒板設置工事費、中学校外国語指導助手配置事業経費など教育関連事業（約5億4千万円）に活用をさせていただきました。今後も貴重なご寄附の有効活用を図ってまいります。
5	6ページの安曇野市教育大綱について「からだを動かし 頭で考え 心で感ずる」は「頭で考え からだを動かし 心で感ずる」が適切ではないか。	意図するところをご指摘のように捉えることもできると思います。「からだ・頭・心」は、バランスの取れた具体的な目指す子どもの姿として、白井吉見先生の言葉を引用しています。
6	・「たくましい」の具体的な中身は現代に即した内容を検討すべき。	「たくましい」については、ご指摘のとおり多様な捉え方がありますので、常に評価・検討してまいります。
7	16ページの郷土への愛着や誇りを高める学校について ・郷土愛の教育は良いが、強制的に郷土愛を持たせる感が気になった。	学校においてしっかりと郷土への愛着や誇りを育んでもらいたいという思いから将来構想に掲げました。将来を担う子どもたちが、大人になってどこに暮らすことになっても、ふるさと安曇野を思い出し、何らかの形で関わろうとする気持ちを持ち続けて欲しいということが願いです。
8	・公立学校でも英語教育の充実を検討してはどうか。	これからの時代を生きる者にとって、ご指摘の点は大変重要であると考えています。市教育委員会では、小学校全10校に4名、中学校全7校に7名の外国語指導助手（ALT）を派遣し、国際感覚を培い、英会話能力の向上を図っています。また、中学校7校では、希望者を募り月1～2回、放課後の1時間にALTによる英会話指導をしています。今後も英語教育の充実を図ってまいります。
9	・IT関連、特にデータサイエンス関連も独自の時間に検討すべき。	令和3年8月に策定しました「安曇野市立小中学校ICT活用計画」のなかで、今後検討してまいります。
10	・安曇野市が教育に独自性(ネイティブの英語授業、IT関連の教育プログラム、エアコン完備、洋式温水洗浄便座、防犯カメラ)を持たせられれば、移住してくる世帯もある。	特色ある教育、行きたい、学びたい学校は、将来構想の中でも大事な視点としております。
11	・従来の部活動について、自治体としても対応していく必要がある。	国や県において部活動指導員制度等の改革の動きがありますので、これらの動向を注視しながら検討するとともに、同制度の拡充については国等へ要望してまいります。

NO	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
12	安曇野市が人口減少の日本で生き残る自治体・地域となるには、時代の変化に対応していける子供を育てる教育が非常に重要と感じている。	ご指摘の点につきましては、重要な視点ととらえています。
13	「将来構想」と「アクションプラン」の位置づけが明確でない。	本将来構想（案）では、子どもを取り巻く環境の変化の現状を把握・分析し、課題を整理しています。そのうえで、目指す教育・学校の将来像を定め、具体的な方策を立てました。本構想を受けて、行動計画（実施計画）の策定に繋げていきます。
14	論理的なストーリー展開になっていない。	本将来構想（案）は、今後の活力ある学校はどうあったらよいかについての方向性をまとめた案です。今後、具体的な行動計画を策定する上での骨格でありコンセプトになります。指標や評価は、行動計画の中で検討し明記してまいります。
15	図表が分かりにくい。	本将来構想（案）のなかでお示ししている図表は、いずれも前後に記載の文章に関連した構成にしましたが、今後も、わかりやすい文章、図表となるよう工夫してまいります。
16	教育委員協議会で話題となった論点やまとめるにあたり工夫した点などを紹介してはどうか。	ご意見は参考にさせていただきます。
17	全体のストーリーに合わせて整理・順番の見直しが必要。	ご意見は参考にさせていただきます。
18	1、2ページで、歴史を入れるのであれば、それらが現在とどうつながっているかを分かるようにすべき。	「1 安曇野教育を支えてきたもの」は、安曇野教育の歩みの中から要点を記載したものです。今後、さらに研究してまいります。
19	2、3ページで、安曇野市内の教育施設に個別の人数を入れてはどうか。	市内の教育施設の概要をつかんでいただくために、最低限の情報といたしました。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4ページで、子どもを取り巻く環境の変化と課題の「現状の分析」の内容は、誰が、いつ、どのようにして実施したものか。 ・ ICT環境の整備アイテムは、どういう目的でどのように使うつもりで導入したのかを明確にすべき。デジタル教科書なども含めて論じてほしい。 ・ 5ページの図9は、「安曇野市学校施設長寿命化計画」を入れてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の課題を大きくとらえたものをご理解ください。今後わかりやすい図表にするため、ご意見は参考にさせていただきます。 ・ ICT環境の整備については、各学校の活用方法を共有し、効果的な活用を目指しています。年度ごとに効果の検証も行っています。 ・ ここでは課題を理解していただくために最小限の情報量としました。「安曇野市学校施設長寿命化計画書」は安曇野市ホームページでご覧いただくことができます。
21	6、7ページで、①教育大綱②目指す子ども像③グランドデザインと今回の「構想」と「アクションプラン」との関係、位置づけ、関連性を明確にすべき。	本将来構想（案）は、教育大綱の基本方針である「たくましい安曇野のこども」の育成のために策定するものです。ご意見は参考にさせていただきます。
22	9ページで、特別支援学級の児童生徒が増えていることをどう捉えているか。	増加している特別な配慮を要する児童生徒については、一人一人の特性に応じたきめ細やかな対応を引き続き行ってまいります。これにあわせて、環境の整備も重要な課題として捉え取り組んでおります。

NO	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
23	13、14ページの「安曇野市の未来を担う世代の状況」について、推定には様々な角度からのデータ収集と解析が必要。	次代を担う人の育成は、小中学校だけでは完結しないことは言うまでもありません。今回、高校生の進路状況を分析し、客観的に推測しうる内容を記載しました。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
24	15～17ページで、アンケート結果と「5つの学校像」「2つの将来像」「3つの具体的方策」について、関連性が分からない。	市民アンケート結果は、将来構想を考えるうえで重要な参考資料であるにとらえています。関連を図りながら構成するよう努めています。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・ACSは学校が主体となって変革を進めるべき。 ・小中一貫校の導入の理由が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市コミュニティスクール事業（ACS）の充実については、学校・地域・行政等が協働して取り組む課題であると考えています。 ・小中一貫教育の発想は、同一地域で育つ児童生徒が、より豊かな学びと成長を地域とともに実現していくために必要な考え方であると捉えています。現在、具体的な検討について、明科中学校区3校で研究しています。
26	安曇野の「たくましい子供」を育てるために多様性や1人1人の個性を認め合える学校・教育、また子供を1人の人、個人として扱い、接し、意見を尊重することを大切にし、「考える力」を育み、子供たちが自分で課題や目標を見つけそれをどうすれば達成できるか考えて行動できる「自主性」や「主体性」、また困難な時にも乗り越えていける力を身につける教育を希望する。	市教育委員会としてもご指摘のような教育の方向性は重要であると考えており、今後も取り組んでまいります。
27	小中一貫校や教科担任制案はとても魅力的だと感じる。また安曇野市の幼保教育では、やまほいく制度という独自の先進的な制度を打ち出していてそちらも魅力的だと感じる。安曇野市の小学校中学校も日本に数少ない先進的な制度を実行すれば移住者を呼び込む事ができ、少子化対策にもなるのではないか。	ご意見や他の自治体の先進事例は、今後の参考にしてまいります。
28	先生方と子供たちが少しでもより良い関係が築けるように学級人数を25人から30人以下の少人数でのクラス編成を切に希望する。	少人数学級の早期実現については、国に対しても要望活動を行ってまいります。
29	<p>いかなる時も教育の場で主役は子供たちであり、私たち大人の考えを押し付けることは時代遅れであり、彼らの可能性を信じて支えていける存在になりたいと考えている。</p> <p>また今回のように地域の方から意見を募られる際は、広報誌だけの告知でなく、学校を通してお便りを頂けないか。</p>	<p>ご指摘の点は、重要な視点にとらえています。</p> <p>ご意見として参考にさせていただきます。</p>
30	<p>「たくましい」について、インクルーシブの視点から言えば、生まれながらにして、障がいがあったり、心身が弱い子も多くいるし、どんなにたくましい子であっても、心の病になることだってあるので、そうした子どもたちにとっては、「たくましい」はどうかと思う。「思いやりがある」等はどうか。</p> <p>「子供が主語」「自律した学校」、子どもを「育てる」学校から子どもが「育つ」学校への視点を持ちたい。</p>	<p>「たくましい」については、ご指摘のとおり多様な捉え方もあると思います。ご意見は参考にさせていただきます。</p> <p>重要な視点と捉えています。</p>
31	安曇野市の「教育方針」安曇野市教育大綱について、基本的に、1～7までの方針は、素晴らしいと思いますが、あくまでも「子どもが主語」でありたい。	常にそのように考えてまいります。